

平和教育について思うこと

1. 教育を考える一言

「だが…オレの家族を、オレの仲間を、オレの里を—この里と同じようにしたお前たち木ノ葉の忍だけが…平和と正義を口にする事を許される訳ではないだろう？（中略）だが復讐を正義と言うならば、その正義はさらなる復讐を生み…憎しみの連鎖が始まる。」

2. 背景

テレビアニメ『NARUTO—ナルト—疾風伝』（テレビ東京系）の436話の中のシーンです。発話者のペインという人物は、主人公ナルトの持つ特別な力を手に入れるため、ナルトの出身の里である『木の葉の里』を壊滅状態に追い込みます。その目的は、「世界平和」。ナルトの力を利用して、一度世界に「痛み」を知らしめることで（つまり大きな戦争をおこして）、その抑止力をもってして平和をなすというのが彼の目的です。ペインの動機とは、出身である小国が、大国の戦争の舞台となったために幾度も傷を負い、苦しめられてきたという経験にあります。

3. 考察

このペインの発言からはふたつのことが読み取れます。ひとつは、人間は自分の愛する人や大切な人を守りたいと思い、相手を傷つけてしまうことがあるということです。そして、それを「正当防衛」とか「正義」と呼びます。私は、いかなる理由があろうとも、人を傷つけることが正義であるように思えませんし、平和につながるとも思えません。誰かを傷つけるということは、その人自身の、またその人を愛する人の憎しみを生みます。そうしてまた別の誰かが傷つき、憎しみが生まれ…。これが「憎しみの連鎖」です。愛と憎しみとは、表裏一体なもののようなものです。もうひとつのことは、人間は大きな痛みを経験しなければ平和に向けて動き出さないということです。悲しいことですが、これはつまり、「犠牲」が必要であるということです。歴史上でも、第一次世界大戦後に国際連盟が誕生し、第二次世界大戦後に国際連合やユネスコが誕生したという事実もあります。

私は、平和をなすことはこの世に生きる人間の義務に近いものだと思っています。この世に生きる以上、住みやすい世界にしていく義務があると思います。また私は、平和はひとりひとりの人間の心から生まれるものだとも思っています。教育とは子どもたちのその「平和」の心を育てる場であると思っています。しかし、教育により平和の担い手を育てるというわたしの考えは、そのようなペインの発言からすると「キレイ事」に聞こえます。わたしには、答えがわかりません。しかし、彼の言葉について考えながら平和教育を実践していきたいという思いでこのセリフを挙げました。

引用文献

岸本斉史『Naruto—ナルト—』第47巻、集英社、2009年